

授業科目名	乳児保育 I	講師名	小川夕也
実施年次 ／時期	1年次 前期	時間数	30 時間
概要	待機児童が社会問題として注目を帯びる中、乳児保育のニーズはますます高まりを見せています。本授業では、現場において細やかな対応が求められる乳児の育ちを正しく理解し、一人一人の心に寄り添える保育者の育成を行います。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷および役割等について理解できる 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できる 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容について理解できる 4. 乳児保育における職員間の連携・協働および保護者や地域との連携について理解できる 		
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 乳児保育の目的と役割 3. 乳児保育の基本 4. 0・1・2歳児の発達 5. 乳児（0歳児）の保育内容 6. 1歳以上3歳未満児の保育内容 7. 乳児の生活と遊びの基本的事項 8. 乳児の生活の基本 9. 乳児の遊び 10. 乳児保育の環境構成 11. 乳児保育における全体的な計画 12. 乳児保育における子育て支援 13. 乳児保育における連携 14. 一人一人を健やかに育てていくために 15. まとめ 		
教科書	『講義で学ぶ乳児保育』 小山朝子 編著 わかば社		
授業の形態	講義		
／方法	／教科書および配布プリントによる講義を行います。		
評価方法	筆記試験 80%、授業への参加度 20%で総合的に評価します。		
その他の事項	保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	乳児保育Ⅱ	講師名	小川夕也
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30時間
概要	待機児童が社会問題として注目を帯びる中、乳児保育のニーズはますます高まりを見せています。本授業では、現場において細やかな対応が求められる乳児の育ちを正しく理解し、一人一人の心に寄り添える保育者の育成を行います。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針における乳児保育のねらいおよび内容について理解できる 2. 保育現場で取り扱う記録の役割および作成方法について理解できる 3. 乳児保育における計画の作成について理解できる 		
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 養護と教育を一体的に考える 3. 乳児保育のねらいおよび内容 4. 1歳以上3歳未満児のねらいおよび内容 5. 保育現場で取り扱う記録の役割 6. 連絡帳を用いた保護者との連携 7. おたよりを用いた保護者との連携 8. 長期的な指導計画と短期的な指導計画 9. 個々に応じた指導計画 10. 諸外国の子育て支援 11. 保護者のニーズと拡大する保育サービス 12. 理想の保育サービスを考える 13. 発表（グループ1） 14. 発表（グループ2） 15. まとめ 		
教科書	テキストは使用しません。随時プリントを配布します。		
授業の形態	講義・演習		
／方法	／教科書および配布プリントによる講義と、書類作成などの演習を行います。		
評価方法	筆記試験 80%、授業への参加度 20%で総合的に評価します。		
その他の事項	保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	教育原理	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30時間
概要 教育原理は、教育の本質や目的、内容や方法などについて、基本的な知見を蓄えることが期待される科目である。本授業では、教育の研究や実践に不可欠だと考えられる概念や議論を、出来るだけ分かりやすく紹介・解説し、教育に関する歴史や思想にふれながら基本的な考え方について理解を深めることを目的とする。また、「教育とは何か」という問いかけに対して、幼稚園・保育所の歴史を通して、今後教育はどうあるべきかを問い続ける姿勢を身に付ける。			
目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解できる 2. 教育思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解できる 3. 教育の制度について理解できる 4. 教育実践の様々な取り組みについて理解できる 5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解できる 			
内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 教育とは 2. 教育の意義と目的 3. 乳幼児期の教育の特性 4. 教育と子ども家庭福祉の関連性 5. 教育の思想と歴史的変遷① 諸外国の教育思想 6. 教育の思想と歴史的変遷② 諸外国の教育の歴史 7. 教育の思想と歴史的変遷③ 日本の教育思想・歴史 8. 教育の思想と歴史的変遷④ 子ども観と教育観 9. 教育の制度① 教育制度の基本 10. 教育の制度② 教育の法律と行政 11. 教育の制度③ 諸外国の教育制度 12. 教育の実践① 教育実践の基礎理論 13. 教育の実践② 教育実践の多様な取り組み 14. 生涯学習社会における教育の現状と課題 15. まとめ 			
教科書 『新基本保育シリーズ② 教育原理』矢藤誠慈朗 北野幸子 編（中央法規）			
授業の形態 講義			
／方法 教科書を使用し、レジュメや資料を配布する。			
評価方法 筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。			
その他の事項 幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	保育の計画と評価	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30 時間
概要	本授業は、乳幼児期の保育を実践する上で、必要不可欠となる計画についての基礎となる理論を学び、保育の計画の作成を通して、保育を見通す力を養うことを目的とする。また、保育計画の意義について理解を深め、「何のため」「誰のため」の計画であるかを学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解できる 2. 保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解することができる 3. 計画、実践、省察・評価、改善の過程について、その全体構造を捉え理解できる 		
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 授業のねらいと概要 2. 保育の計画と評価の基本① 全体的な計画・教育課程と指導計画 3. 保育の計画と評価の基本② 保育の計画と評価の意義 4. 指導計画の基礎① 指導計画の作成と留意事項 5. 指導計画の基礎② 指導計画の具体例 6. 保育の計画の方法と技術① 記録の方法と技術 7. 保育の計画の方法と技術② 環境を通して行う教育の計画の方法と技術 8. 子どもの発達過程と指導計画① 発達過程の基本的理解と保育内容 9. 子どもの発達過程と指導計画② 発達過程と保育の計画 10. 保育所における保育の計画① 全体的な計画の内容 11. 保育所における保育の計画② 指導計画の実際 12. 保育の評価について① 保育内容と実践についての記録・省察および評価 13. 保育の評価について② 保育者および保育所の評価 14. 保育の評価について③ 多様な保育の計画と保育評価 15. まとめ 		
教科書	『保育の計画と評価を学ぶ』加藤敏子 岡田耕一 編（萌文書林）		
授業の形態	講義		
／方法	／教科書を使用し、レジュメや資料を配布する。		
評価方法	筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。		
その他の事項	幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	人間関係	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30時間
概要 本授業では、現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、人とかかわることの意義や意味を学んだ上で、領域「人間関係」の基礎理論の理解を深めることを目的とする。			
目標			
1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取扱いについて理解できる			
2. 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達など子どもを深く理解し、保育実践に応用できる			
3. 養育者・保育者など子どもを取り巻く人的環境における関係性について理解を深めることができる			
内容			
1. 子どもを取り巻く人間関係			
2. 保育の基本と人とのかかわり① 「生きる力」の原点としての人間関係			
3. 保育の基本と人とのかかわり② 領域「人間関係」とは			
4. 乳幼児期における人とのかかわり① 0歳児の人間関係			
5. 乳幼児期における人とのかかわり② 1歳以上3歳未満児の人間関係			
6. 乳幼児期における人とのかかわり③ 3歳以上児の人間関係			
7. 遊びのなかで育つ人間関係① 人とのかかわりと遊び			
8. 遊びのなかで育つ人間関係② 子どもの遊び体験			
9. 人とのかかわりを育てる保育の実践① 保育現場での実際			
10. 人とのかかわりを育てる保育の実践② 遊びを通じた総合的指導			
11. 多様な配慮と保育構想			
12. 小学校生活への連携			
13. 子どもの人間関係と社会性・道徳性			
14. 家庭や地域との連携			
15. まとめ			
教科書	『ワークで学ぶ 保育内容「人間関係」』菊池篤子（みらい）		
授業の形態	演習		
／方法	／教科書や資料を使用し、グループワークやロールプレイングを中心に授業を進める。		
評価方法	筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。		
その他の事項	幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	保育者論	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30 時間
概要 本授業では、保育者の倫理観に裏付けされた役割や、制度的な位置づけ、歴史的背景などについて学び、子どもの保育と保護者支援を行う保育者の専門性について理解を深めることを目的とする。また、「成長し続ける保育者」をキーワードとし、各自が理想とする保育者像に近づくために、何が必要か、を問い続ける姿勢を大切にしていきたい。			
目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者の役割と倫理について理解できる 2. 保育者の制度的な位置づけを理解できる 3. 保育者の専門性について理解できる 4. 保育者の連携・協働について理解できる 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解できる 			
内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者とは① 保育者の一日 2. 保育者とは② 保育者の制度的位置づけ 3. 保育職とは① 保育者としての資質 4. 保育職とは② 保育者としての倫理 5. 現代の保育にまつわる問題① 子どもを取り巻く環境の変化と現状 6. 現代の保育にまつわる問題② 配慮を要する子どもへの理解と対応 7. 保育者の役割① 保育者の職務内容 8. 保育者の役割② 初任者・中堅者・管理職の役割 9. 保育者の専門性① 保育者に求められる資質・能力とは 10. 保育者の専門性② 保育の実践の向上 11. 保育者の専門性③ 保育の安全管理と危機管理 12. 保育者の連携・協働① 保護者・家庭とのかかわり 13. 保育者の連携・協働② 関連機関や地域との連携 14. 保育者の資質向上とキャリア形成 15. まとめ 			
教科書	『保育者論 ー子どものかたわらに』小川圭子 編（みらい）		
授業の形態 ／方法	講義 ／教科書を使用し、レジュメや資料を配布する。		
評価方法	筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。		
その他の事項	幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		